

# ぶらり散歩 3

茨木市の市街地に遊歩道があるのをご存じですか。「高瀬川せせらぎのプロムナード」という名前がついています。また、「高瀬川親水水路」という石碑もいくつか見かけます。何気なく通っている人も多いでしょうが、これがけっこう趣があり、手入れの行き届いている道や水路なんです。外は冷たい風が吹いていますが、この高瀬川水路に沿ってぶらりと散歩してみることにしましょう。



茨木市の斎場の西側にある高瀬川親水水路から南に向かって歩いてみましょう。水路をのぞくと、私たちの足音に気付いてか、体長50センチほどのたくさんのコイが寄ってきました。この水路は茨木市が管理していますが、コイは特に飼っているわけではなく、いつの間にか増えていったようです。しばらくコイを眺めて楽しんだ後、道路の信号を渡ると「高瀬川せせらぎのプロムナード」と記された石碑がありました。水路沿いの歩道はカラーブロックで整備され、モクレンやハナミズキなどが植えられています。春には美しい花の道となり、夏には葉が木陰を作り、秋には紅葉となるのでしょう。水路の壁面には数メートルごとにプランターが備えられ、パンジーなど色とりどりの花が植えられています。水路の水はきれいに流れ、ところどころに石段や飛び石が設けられ、水辺に近寄ることもできます。つがいのカモが流れに沿ってゆるやかに泳いでいました。

大住町辺りから水路は二手に分かれますが、竹橋町辺りで再び合流し南へと流れます。阪急茨木市駅に近づくとも水路は道路の下に潜り込んでしまいました。阪急本通商店街の入り口辺りで「高瀬川せせらぎのプロムナード」は終わります。中央通りを横切り、永代町交番の裏手にあるバラのアーチをくぐると再び水路が現れました。ここにもコイが泳いでいます。近くに「高瀬川親水水路」と記された石碑がありました。水路は阪急電車のガード下でも見えなくなり、舟木町西の交差点を渡ると現れます。この場所にも同じように親水水路の碑が立っていました。



左上:阪急茨木市駅近くの「高瀬川親水水路」  
上:「高瀬川親水水路」と記された石碑  
左:永代町交番裏のバラのアーチ(春と秋にたくさんの花を咲かす)

水路は東の方向に直角に曲がります。角にはきれいな植え込みがあり、水路の内側の壁には規則正しくプランターが備え付けられ、きれいな花が植えられていました。

大池一丁目の交差点までやって来ました。ここにも親水水路の石碑が立っています。ここを南に直角に曲がると、水路はしばらく姿を消し、地下を流れる水路の目印になっていた花壇なども見当たらなくなりました。

佐奈部神社の南辺りまで来て、並木町の交差点を渡ると、水路にやっと出会えます。幅が広がった水路にはたくさんのコイが群れていました。高瀬川親水水路の水はこの先、安威川に入り、最後は大阪港へと流れるそうです。今日の散歩は市街地を歩いたにもかかわらず、水辺の雰囲気やコイ、花々に癒された、心安らぐ1時間でした。

皆さんものんびりと散歩してみませんか。



親水水路のコイ



舟木町の水路上の花壇

# ごみと資源物の分別できていますか？

近年、地球環境悪化の原因の一つとして、ごみの問題が大きく取り上げられています。なぜ、ごみが地球環境に悪影響を与えるのでしょうか。また、なぜ、ごみと資源物の分別が必要なのでしょう。環境事業課の吉田課長代理と環境政策課の東井係長に、茨木市のごみの減量化とリサイクルの現状について聞いてきました。



ごみの減量化とリサイクルに関する現状を教えてください。

平成21年度(2009年度)に収集したごみの量は、約106,000トン(家庭系ごみ約53,000トン、事業系ごみ約53,000トン)です。これは25メートルプールおよそ1,178杯分に相当し、処理するのに約34億円の費用がかかりました。ごみの量を4年前の平成17年度(2005年度)と比較すると、約22,000トン減少しました。ごみの量が減った理由として、平成19年(2007年)4月から実施した、ごみ袋の透明化や古紙類やペットボトルなどの資源物の分別収集、市民意識の向上などが考えられます。

ごみの減量や分別がなぜ必要なのか教えてください。

ごみを減らすことによって、地球温暖化の原因の一つとなっている二酸化炭素の排出を押さえることができます。また、ごみの処理費用が節減でき、施設の延命化が図れます。現在、茨木市では、「普通ごみ」「粗大ごみ」「缶・びん・ペットボトル」「古紙類(新聞、雑誌、段ボール)」に分けて収集しています。ごみと資源物の分別が必要な理由は、限りある資源を有効に利用し、使い捨て社会から循環型社会へと転換を図ることによって、地球温暖化を防ぎ、ひいては、地球上の生き物を守ることにつながるからです。

## 紛らわしいごみの分別方法

- ペットボトル(ペットマークが付いたもの)  
「資源物(缶・びん・ペットボトル)」か  
スーパーの回収ボックスへ
  - 牛乳などの紙パック  
市内の公共施設やスーパーの回収ボックスへ
  - 油、漂白剤、ソースなどのプラスチック容器類  
「普通ごみ」
  - 飲料・食料品・飲み薬のびん  
「資源物(缶・びん・ペットボトル)」
  - ガラスコップ、化粧品のびん、ガラス製花瓶  
「粗大ごみ」
  - 茶碗・花瓶などの陶器類  
「普通ごみ」
  - 携帯カセットボンベ、スプレー缶  
「普通ごみ」(使い切って穴を開ける)
  - 靴・靴などの皮革・ゴム製品  
「普通ごみ」(30センチ以上のものは粗大ごみ)
  - 筒型乾電池  
「普通ごみ」
  - ボタン電池、小型充電式電池  
電気店の店頭回収箱へ
  - 発泡スチロール  
「普通ごみ」(大きい物は細かく)
  - 家庭用パソコン  
各パソコンメーカーへ
- ※詳しいごみの分別については、保存版「ごみの分け方と出し方」(各家庭に配布)に記載しています。

ごみを減らす方法をいくつか教えてください。

- 循環型社会を築くために3Rを実践しましょう。
- Reduce (リデュース・ごみの発生抑制)  
余分なものを買わない、買い物袋を持参する、詰め替え用品を利用するなど、ごみになるようなものを増やさない。
  - Reuse (リユース・再使用)  
繰り返し使えるものを選ぶ。フリーマーケットやリサイクルショップに持って行くなどして、欲しい人に譲る。
  - Recycle (リサイクル・再生利用)  
資源として再利用できるものは正しく分別し、資源として出す。生ごみを生ごみ処理機などでたい肥化する。

茨木市のごみ処理施設は3基の高温溶融炉で効率よく処理しています。溶融物は、鉄分、スラグ、飛灰に分かれて出てきます。鉄分とスラグは再利用され、飛灰は埋め立てられます。ごみ処理で出る熱は発電し施設内で利用し、余った電力は売却しています。



環境政策課 TEL 620-1644 FAX 627-0289  
環境事業課 TEL 634-0351 FAX 634-0353